

8つのパーソナリティタイプ	好きな活動の特徴			強い場合の特徴・強み ※( )は弱みとして言い換えた場合	特に弱い場合の注意（例）
<b>P</b> 正確に進めるのが好き <b>パフォーマー</b> PERFORMER : 組織的	テキパキ進める コツコツ取り組む キッチンとやる	完成度をあげる 正確に進める スケジュールを守る	整理せいとんをする 大勢の人と一緒に進める グループで役割を果たす	◎ ルールを重視する（融通がきかない） ◎ 任されたことをやりとげる（受け身になりがち） ◎ 正確に物事を遂行する（細かいことにこだわる）	● 時間や約束にルーズ ● 整理整頓が苦手 ● 予習・復習が苦手
<b>D</b> 影響を与えるのが好き <b>ディレクター</b> DIRECTOR : 影響的	人に影響を与える 人をやる気にさせる 議論する・実践する	交渉する・説得する 計画・作戦を立てる ルールをつくる	人をリードする・指導する 初めてのことに挑戦する 人を巻き込んで取り組む	◎ リーダシップがある（何かと仕切りたがる） ◎ 初めてのことに挑戦する（過去の経緯を軽視する） ◎ 自信をもって物事に取り組む（強引になりがち）	● 実践力や主体性に欠ける ● 内向的で、意見を主張しない ● 自信が無く、無難に行動する
<b>W</b> 本質を極めるのが好き <b>ウォッチャー</b> WATCHER : 社会的	本質を見極める 正義を貫く 好奇心を引き出す	文章を書き、伝える 社会に貢献する 教育に関わる	社会問題に関わる 文化・伝統・歴史に触れる 哲学的な議論をする	◎ 正義感が強い（正義を押しつけがち） ◎ 好奇心が強い（ひとつの興味に定まらない） ◎ 社会問題に興味が高い（現実的な考えを軽視する）	● 社会貢献的なことに無関心 ● 物事を突き詰めて考えることを避ける ● 深い議論を避ける
<b>S</b> 人の役に立つのが好き <b>サポーター</b> SUPPORTER : 支援的	誰かの役に立つ 人のお世話をする 友達の相談に乗る	気を配る おしゃべりをする 人を育てる	相手の気持ちを思いやる 周囲を盛り上げる 仲良くなる・関係をつくる	◎ 社交的でよく話す（おしゃべりが過ぎる） ◎ 人の役に立ちたい（おせっかいが過ぎる） ◎ まわりに気を配る（自分のことを棚に置く）	● 初対面の人が苦手 ● 人との関わりを避ける ● とつきにくい（冷淡な印象）
<b>C</b> 感性を活かすのが好き <b>クリエイター</b> CREATOR : 創造的	感性を活かす 自分を表現する アイデアを考える	楽器を弾く・絵を描く 小説・エッセイを書く 独創性を発揮する	料理をつくる デザインする・創作する 新しいことを考え、発想する	◎ 感性豊かに表現する（自分らしさを表せないと窮屈） ◎ オリジナリティがある（独りよがりになりがち） ◎ 斬新なアイデアを考える（周りが理解できないこともある）	● 美術・音楽・文芸などが苦手 ● 独創的な発想が乏しい ● 新しいことや変化を避ける
<b>A</b> データや分析が好き <b>アナライザー</b> ANALYZER : 研究的	調査・分析をする 数字をつかう 数学の問題を解く	証明する・解明する 資料を調べる 実験する	新しいものをつくりだす データやグラフ、表をつかう 分類・整理する	◎ 数字やデータが好き（データにとらわれがち） ◎ 論理的に物事を考える（理屈っぽくなりがち） ◎ 理論や背景を大事にする（納得しないと行動しない）	● 論理的に考えることが苦手 ● 数字やデータ・グラフを扱うことに苦手意識 ● 難度の高い数学が苦手
<b>E</b> 機械や物作りが好き <b>エンジニア</b> ENGINEER : 技術的	モノづくりをする 工作する 道具・機械を操作する	何かを組み立てる 原因を探る 仕組みを考える	検査して問題を発見する コンピュータをつかう システムを考える	◎ モノをつくるのが好き（成果物の現れないものに興味が薄い） ◎ 作業や操作（操縦）が好き（人の気持ちを軽視する） ◎ 仕組みを考えることが好き（自分のやり方にこだわる）	● モノづくりに興味が無い ● 現実的なことを軽視する ● コンピュータや機械を扱うのが苦手
<b>F</b> 身体を動かすのが好き <b>フィールダー</b> FIELDER : 野外活動的	カラダを動かす スポーツをする 野外活動をする	勝負にこだわる 冒険する 危険や謎に挑む	いろんな国をおとずれる ものごとの起源に迫る 生態を観察する	◎ スポーツや野外活動が好き（室内に長くいると窮屈） ◎ 競技や冒険を好む（危険があっても挑む） ◎ 体験を重視する（理由や背景を軽視する）	● 体育やフィールドワークが嫌い ● 勝負に固執しない ● 慎重に考えすぎて行動が伴わない

タイプの組み合わせでみる特徴的な例	
<b>D</b> <sub>高</sub> + <b>P</b> <sub>低</sub>	リーダー気質のディレクター(D)は高いがパフォーマー(P)が低いと、細かなことや実際の行動が伴わないこともあるかもしれない。学習の面では予習・復習を苦手とすることもあり(Pが低い特徴)、一夜漬けで乗り切ろうとする(Dが強い特徴)となる可能性もみられる。
<b>E</b> <sub>高</sub> + <b>S</b> <sub>高</sub>	相反するタイプのエンジニア(E)とサポーター(S)が共に高い場合、「モノを作ること」と「人と接すること」は同時に行えない活動でもあるため、ジレンマの要素の一因ともいえる。自分の中で折り合いを付けられれば、接客・販売(Sの特徴)または、製造・作業現場(Eの特徴)での働き方に向いている面がある。
<b>A</b> <sub>高</sub> + <b>P</b> <sub>高</sub>	論理的に考える志向のアナライザー(A)とコツコツ・正確な志向のパフォーマー(P)が共に高い場合は、無口で内省的な面が見られることが多い。言葉は少なくとも、自分なりに良く考えていることも多いので、面談の際は話を遮らずに返答を待ってあげることが肝要。
<b>S</b> <sub>高</sub> + <b>C</b> <sub>高</sub>	社交的なサポーター(S)と感性が高くオシャレなクリエイター(C)が共に高い場合、コミュニケーションに長けて、華やかな面もあり、クラスの中でムードメーカーになることもある。一方でビジネス分野や仕事に関わる興味があまり高まっていない面が伺えるかもしれない。

あくまでも理論をベースに考えられる例を強調した参考です。この資料によって、決めつけの様な対応とならないようご注意ください。

強い・弱い目安は、  
強い → 30%以上 (35%超はかなり強い)  
弱い → 10%未満 (最小値は3%)  
どれも15%前後 (20%以下)の場合は明確な特徴がみえにくいかもしれない。  
※個人内の相対的な数値ですので、あくまでも目安の参考値としてお考えください。

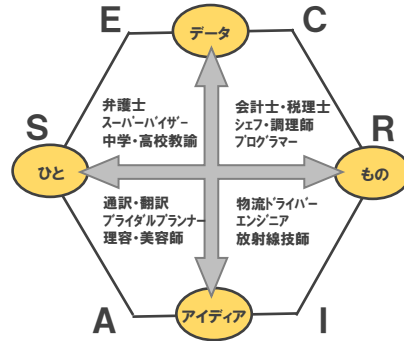


ホランド理論 (John L. Holland 米国1919-2008) の職業興味志向をベースに、現代の若年層に  
関心が高い、野外活動的志向・社会貢献的志向の2つを切り出し、8つのタイプに再編成し  
たものがR-CAPの「8つのパーソナリティタイプ」です。

表1 8つのパーソナリティタイプ対応表

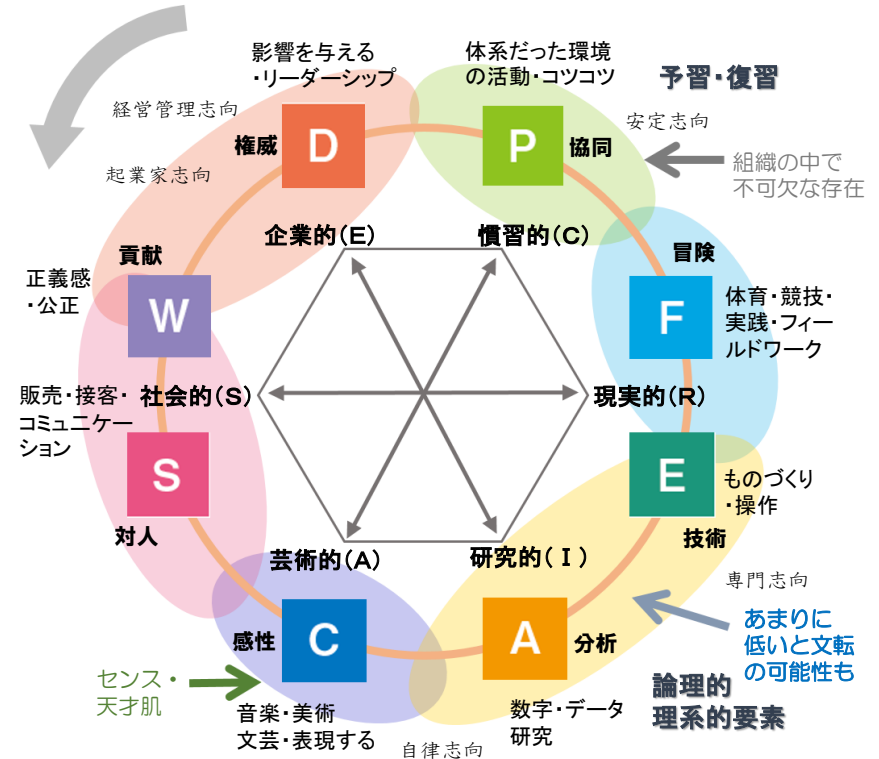
8つのパーソナリティタイプ	ホランドコード
<b>E</b> 機械や物作りが好き <b>エンジニア</b> ENGINEER: 技術的	<b>R</b> 現実的 Realistic
<b>F</b> 身体を動かすのが好き <b>フィールドア</b> FIELDER: 野外活動的	
<b>A</b> データや分析が好き <b>アナライザー</b> ANALYZER: 研究的	<b>I</b> 研究的 Investigative
<b>C</b> 感性を活かすのが好き <b>クリエイター</b> CREATOR: 創造的	<b>A</b> 芸術的 Artistic
<b>S</b> 人の役に立つのが好き <b>サポーター</b> SUPPORTER: 支援的	<b>S</b> 社会的 Social
<b>W</b> 本質を極めるのが好き <b>ウォッチャー</b> WATCHER: 社会貢献的	
<b>D</b> 影響を与えるのが好き <b>ディレクター</b> DIRECTOR: 影響的	<b>E</b> 企業的 Enterprising
<b>P</b> 正確に進めるのが好き <b>パフォーマー</b> PERFORMER: 組織的	<b>C</b> 慣習的 Conventional

図1 ホランドの6角形モデル



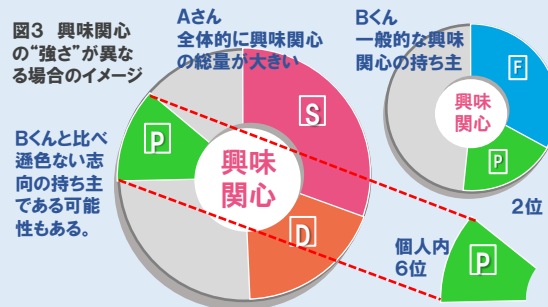
ホランド理論の基本的な考え方(抜粋)  
 ▶子供は興味をもった活動を上達させようとする  
 ことで、能力やスキルが発達していく。  
 ▶人は上記のタイプの組合せで表され、関連し  
 た活動をすることで、価値観を満たそうとする。  
 ▶思春期の終わりから青年期にかけて、その  
 興味や能力に関連する価値観が発達していく。

図2 ホランドタイプと8つのタイプの相関関係



参考①  
タイプの円グラフ  
を見る際の注意

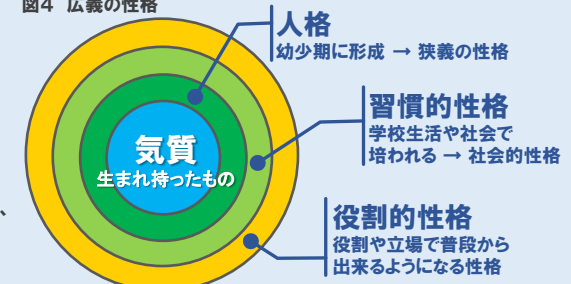
タイプの円グラフは、個人の中での割合を示しています。大きさは同じであっても、その興味関心の総量＝「強さ」に違いがある可能性も考慮する必要があります。順位や％は優劣ではないことにご注意ください。



参考②  
タイプ(性格)は  
変わらないのか

気質や人格は変わらないとされていますが、習慣や経験の積み重ねで、対応力を高めることが可能です。今は、不得意(嫌い)と感じることも、意識し経験を積むことで、実社会に十分に適應していくことができます。

図4 広義の性格



隣り合うタイプは相性がよく、対極にあるタイプは、相反する志向のためジレンマの原因になるといわれています。

